

1 題材名

『千葉県は農業県、千葉市はどうかの?』 <2年生 地理分野 「関東地方の多様な産業」>
～あまり知られていない千葉市内産の農産物たち～

2 授業のねらい

- ①「ちはなちゃんゼリー」は知られていますが、そこで「なぜこんな製品があるのかな?」と疑問を持つと、地元千葉市でにんじんが多く生産されていることがわかります。学校や自宅の周辺に農地があれば「何を作っているのかな?」と関心を持つ生徒が出てくることに期待します。
- ②職場体験でスーパーやJA、〇〇牧場、□□農園などにもお世話になるようになりました。体験に行くと、それまで知らなかった(千葉の農業に関する)知識を持ち帰ってきて得意気に話す生徒は、知的好奇心が満たされたよい表情をしています。地元教材を用いて学習意欲を高めます。
- ③千葉県が代表的な「農業県」である事実をふまえて千葉市の農業生産について学習します。この授業では「へえー、そうだったんだあ!」という発見があれば、それで本題材の目的は達成されたと考えます。

3 指導計画上の位置付け

◇1時間扱い

◇第3編第3章：日本の諸地域 5節：関東地方 最後に扱うとよいと思います。

4 予想される授業の流れと指導資料

- ①千葉県及び千葉市の農業の概要をつかみます。
 - * 農業産出額、農家数(農業人口)、耕地面積などを数字で(ランキングなど)
 - * 千葉市～農業産出額 86億円(平成30年) 県内17位
内訳：米9%、野菜37%、豆類11%、畜産23% 主要生産物名も確認
(千葉市でも農業が結構行われているということに気付かせます!)
 - * 学校給食メニュー材料表に印をつけ、市内産をチェック(給食センターに確認しておく)
野菜：(時期により)ニンジン、ほうれん草、小松菜、ねぎ、さつまいも、さといも など
畜産：〇〇牛乳、〇〇ヨーグルト など
 - * 各区別の数字から地域的な特色を発見・考察する。(時間があれば・・・)
- ②千葉市で野菜類の生産割合が高い理由を話し合います。その後発表して共有します。
 - * 東京方面へ出荷に有利、気候や土地が野菜向き、 など
 - * 地産地消 →「千産千消」 市場としても大きい千葉市、学校給食への提供も含む

<活用する主な資料>

- ◎各種統計資料・グラフ等(千葉地方卸売市場の出荷地別入荷量など)
- ◎スーパー等のチラシ ◎給食メニュー表 ◎現物資料(野菜等)
- ◎小学校3年生副読本から『にんじんを育てる』(千葉市教委)

5 指導上の留意点、その他

- ◇千葉県の丘陵や平地がひろがる地形、穏やかな気候、大消費地への近さなどが農業県として有利であること(→「近郊農業」)をつかませます。
- ◇学区内や自宅周辺に農地があれば、栽培品目や収穫時期、出荷先等をあらかじめ調べて、授業時に披露するとより関心が高まると思われます。